

アジア民衆史研究 第11集

2005年度報告

# ウェスタンインパクトは いかに語られたか

東アジアにおける民衆の世界観(5)

## 序文

21世紀に入ってから、アジア民衆史研究会は、活動スタイルの点でも追求するテーマの点でも、一つの大きな軌道を走っている。2005年度もその軌道の上で歩を進める努力を重ねた。

活動スタイルでは、ワーキンググループの定期的な勉強会によってシンポジウムの準備を行い、年間の研究の方向を明確にし、シンポジウムの冒頭では個別の報告に入る前に、かならず趣意書を音読して討議し、会全体としての問題意識の共有をはかってきた。この方法は、趣旨の浸透、議論の蓄積という点で長所があり、またワーキンググループに若手の研究者を集める求心力の効果ももたらし、会活動を安定させている。

そうした蓄積が進むなかで、この研究会が当初持っていた研究の国際交流も、初期の精神を受け継ぎながら、より組織的持続的な交流を実現する方向への軌道が設定された。それは、若手研究者を重視した研究の国際的ネットワークづくりと、具体的な報告・討論の場の設定である。この活動は、立ち上げの段階であるため、全会の共有にはなりきれていないが、早晚規模の大きい形で国際シンポを開催できる見込みを確実にしている。

本論集は、2005年度の研究活動の成果を収録したものである。研究活動の大きな軌道は、2001年度以来の「東アジアにおける民衆の世界観」の追求であり、今年度も、「人々の空間・時間・人間に関わる意識の総体」である世界観を角度を変えて検討してきた。

人々は、生活する家・村町などの日常的な空間から、国家・アジア・世界・宇宙などに至る三次元的な場に、身体的に精神的に居住し、自己の行為を規定されながら、逆に生活・活動の時間を過程的に体験することを通じて所与の空間認識を主体的に変えていく。われわれは、その相互関係をとらえることに努めてきた。

2005年度は、その大きなプランのもとで、「語り」に着目した。民衆の世界観がどのように創られるかという過程を考えると、それぞれの生存の場で外から与えられた通念的な枠組みで事物・出来事を認識するが、その通念は他からの「語り」の受容によって形成される。民衆は、自分の耳目にはいった情報で認識を構成していくが、受け身だけではなく、「語る」主体となって周囲の認識を左右していく。

「語り」には口頭の行為もあるが、文字や画像もまた「語り」の媒体である。とくに口頭の「語り」は、民衆を正誤の認識にも導くが、認識形成のもっとも活発な主体ともなる。なぜなら、流言飛語とされるものの多くは民衆間の「語る」行為の連鎖で拡大するものだからである。そうした民衆社会の「語り」を重ねる特性を利用する支配集団、運動集団からの組織的な情報宣伝が行われることはいうまでもない。しかし、取り込まれ利用される面だけを見るのは、適切ではない。

こうした「語り」の機能と歴史像形成の関係について、民衆が世界観を形成する契機の重要な要素であり、民衆がもっとも主体的に関与する活動領域でもあるという観点から、民衆史研究の方法として積極的に取り組んでいきたい。本論集からそうした熱意を汲み取っていただくことを希望したい。

会員・読者からの忌憚のないご批判と、同時に、会活動へのご参加を期待したい。

2006年5月1日

アジア民衆史研究会代表 安在邦夫 深谷克己

## 目次

アジア民衆史研究 第11集

序文

安在邦夫 深谷克己

2005年度趣旨文 ウェスタンインパクトはいかに語られたか

中嶋久人 7

### 第一回大会

「クラント將軍」とは誰のことか

— 1879 (明治12) 年、コレラ騒動の風聞から —

杉山 弘 9

清末湖南の反キリスト教運動と「正しさ」の系譜

山田 賢 22

参加記

高口康太 34

討論要旨

37

### 第二回大会

東アジア近代におけるウェスタン・インパクトと国教創設運動の展開

佐々充昭 39

小林一茶の社会性と海外認識

青木美智男 54

参加記：だれもいない森の中で木が倒れたら歴史学になるか

玉井建也 80

討論要旨

83

## 目次

亞細亞民衆史研究 第十一集

序言

安在邦夫 深谷克己

宗旨 二〇〇五年度：有關西方衝擊之表述的反思

中嶋久人 7

### 第一回大會

誰是“格蘭特將軍”？

—從 1879(明治 12) 年霍亂騷動傳聞說起—

杉山 弘 9

晚清湖南教案與“正當”之譜係

山田 賢 22

與會感想

高口康太 34

討論要旨

37

### 第二回大會

西方衝擊与近代東亞創設國教運動的展開

佐佐充昭 39

小林一茶的社會性及其對海外的認識

青木美智男 54

與會感想：木傾於林，人未見之，斯何以成史？

玉井建也 80

討論要旨

83

## 목차

### 아시아민중사연구 제 11 집

#### 서문

안자이 쿠니오 후카야 카쓰미  
安在邦夫 深谷克己

#### 2005 년도취지문 서구의 충격이 어떻게 말해졌는가

나카지마 히사토  
中嶋久人 7

#### 제 1 회대회

##### ‘쿠란트 장군’ 이란 누구인가

— 1879( 메이지 12) 년 , 코레아소동의 풍문에서—

수기야마 히로시  
杉山 弘 9

##### 청말호남의 반기독교운동와 ‘올바름’ 의 계보

야마다 마사루  
山田 賢 22

##### 참가기

타카구치 코우타  
高口康太 34

##### 토론요지

37

#### 제 2 회대회

##### 동아시아근대 서구의 충격과 국교창출운동 전개

사사 미쓰아키  
佐々 充昭 39

##### 코바야시 잇사의 사회성과 해외인식

아오키 미치오  
青木美智男 54

##### 참가기 : 아무도 없는 숲속에서 나무가 넘어지면 역사학이 될까

타마이 타쓰야  
玉井建也 80

##### 토론요지

83

---

## 趣旨文

### ウェスタンインパクトはいかに語られたか

#### ——東アジアにおける民衆の世界観（5）

アジア民衆史研究会では2001年度以来、中長期的なテーマとして「東アジアにおける民衆の世界観」を掲げている。空間・時間・人間に関わる意識総体を〈世界観〉として把握し、そこからアジア地域における民衆の主体形成の問題を検討することを課題としている。

このテーマのもと、2001年度は民衆の〈世界観〉の一側面として「君主観」の問題を取り上げ、続いて2002～2004年度は、「他者をめぐる空間認識」の問題を取り上げた。民衆は自らの所属している空間をどのように認識しているのか、という問題意識のもと、2002年度は大きく視野を広げ自己と他者との関係の中における空間認識を検討した。さらに2003年度には特に権力関係の中での空間認識の問題を検討し、支配層と民衆との認識のズレの問題について検討することが出来た。また、「境界」というものがアプリアリに存在するのではなく、「他者」との出会いを通じて形成されていくものであること等についても、幅広い議論をすることが出来た。2004年度においては、移動の結果として起こる接触という場面から、どのような世界観が形成され、ないしは変容をとげたのかという問題を取りあげ、直接的には国家を意識していない民衆独自の空間認識の検討を試みた。

しかし、議論においては、世界観が民衆の行為を拘束する既存の認識枠組みとして第一義的に意識され、民衆それぞれの行為によってそれが創出ないし変容し、あらたな実践の前提となっていくということが看過されがちであった。さらに、議論を続けていくうちに、世界観なかんずく空間認識について、それぞれの報告が興味深い指摘をしているものの、それらが有機的に関連しあって、「アジア」全体を問題にした提起が十分なされていないという反省が生じた。

そこで、本年度は、世界観を創出する行為としての〈語り〉に注目して、民衆の世界観を考えていきたい。今までの歴史学は、いかに正確に情報が伝達されたのかということに重きを置いてきた。一方で、〈語る〉という行為に着目した研究も表れてきている。このようだ動向をふまえて、アジア民衆史研究会としては、いままで十分方法的に把握されてこなかった流言飛語なども意識的にとりあげ、必ずしも正確ではなく整理もされていない民衆のきれぎれの〈語り〉を検討する

ことで、民衆がどのように主体的に世界観を創出し変容していったのかということにせまっていきたい。

その上で、この民衆の〈語る〉という行為を検討する対象として、東アジア地域の民衆のある種の共有された基礎経験であり、まさに彼らの世界観の前提となったというべきウェスタンインパクトをとりあげる。アジア民衆史研究会では民衆がウェスタンインパクトをどのように語ったのかということを通じて、民衆が世界観をどのように創出し変容していったのかという問題を考えていくことにしたい。

**文責：中嶋久人**

(アジア民衆史研究会ワーキンググループ)

---

## 入会のご案内

- アジア民衆史研究会では随時入会を受け付けています

会費は、下記の通り A 会員・B 会員の 2 種類があります。

A 会員：年 2 回の会報送付

B 会員：年 2 回の会報送付および年 1 回の論集送付

尚、当研究会の会計年度は、4 月から翌年 3 月までとなっています。

また、会の財政上、寄附金(1 口 1000 円)も承っております。会の趣旨にご理解を頂き、是非ともご援助を賜りたくお願い申し上げます。個人・団体共に非会員の形で御寄附を頂いた場合は、会員同様本会活動のご案内を 1 年間お知らせいたします。

- 入会の方法

メールによるお申し込みの場合は、お名前・ご住所・メールアドレス・電話番号・ご所属・専門分野・A 会員 /B 会員どちらかを明記の上、

[popular.history.in.asia@gmail.com](mailto:popular.history.in.asia@gmail.com) (事務局：佐野)

までご連絡ください。おり返し会費振込用紙などをお送りいたします。

- Web サイトをご覧ください

当研究会の Web サイトでは、入会のご案内、研究会のお知らせおよび年間スケジュール、過去に出版した論集の詳細、会報目次などの情報を掲載しています。

<http://www.waseda.jp/assoc-asia/>

## アジア民衆史研究 第11集

---

発行 2006年5月25日

発行者 アジア民衆史研究会

〒162-8844 新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 深谷研究室

TEL 03-3203-4141(代表)

<http://www.waseda.jp/assoc-asia/>

[popular.history.in.asia@gmail.com](mailto:popular.history.in.asia@gmail.com)

---

装幀 田村亜紀子

印刷所 早稲田大学メディアミックス